

ビッグデータの活用の在り方 について

情報通信審議会 ICT基本戦略ボード
ビッグデータの活用に関するアドホックグループ
取りまとめ

平成24年5月17日

目次

1. ビッグデータの活用に関する背景と現状
… 3

2. ビッグデータの活用に関する国内外の取組と課題
… 22

3. ビッグデータの活用に向けた方向性と具体的方策
… 30

[別添] ビッグデータの活用に関する関係者ヒアリング等の概要

[参考] ビッグデータの活用に関するアドホックグループについて

1. ビッグデータの活用に関する背景と現状

- 国内外の主なシンクタンクによる調査において、いわゆる「ビッグデータ」については、2012年以降のICT(情報通信技術)分野における重要な潮流や戦略的な技術として位置づけられ、関係事業者等において取組が活発化。

Gartner

- 2012年以降にIT部門及びユーザに影響を与える重要な展望「Gartner Predicts 2012」において、次のとおり発表
 - ☞ 2012年に向けて企業が利用できる情報量が増えるものの(「ビッグデータ」)、これらを理解することが課題
 - ☞ IT部門によるシステムの管理責任がクラウド等により外部にシフトし、データの一貫性と有効性の確保が困難
 - ☞ 2012年の重要な展望11項目のうち1項目として、「2015年までを通じ、Fortune500企業の85%以上が、ビッグ・データを競合優位性確保のために効果的に活用することに失敗」を位置づけ
- 2012年の重要な戦略的技術(今後3年間でITやビジネスに革新を起こすもの、多大な投資の必要が生じるもの等として企業に大きな影響を与える可能性を持つ技術)として、履歴データやリアルタイムデータの分析等へ進化する「次世代アナリティクス」や、膨大な量のデータに関する「ビッグ・データ」を位置づけ



- 2012年における国内IT市場でキーとなる技術や市場トレンド等「Japan IT Market 2012 Top 10 Predictions: 社会基盤を変革する第3のITプラットフォームの台頭」において、主要10項目のうち1項目として、「2012年はビッグデータ活用型アナリティクスビジネスのリーダーの座をかけた競争のスタートダッシュの年になる」を位置づけ



- 今後5年のICT市場のトレンド「ITナビゲーター 2012年版」において、ICT分野における大きな潮流の1つとして、「ビッグデータビジネス(昨今の革新的な情報・通信技術を活用して、きわめて大量のデータを高速で収集・解析することにより、社会・経済の問題解決を図ったり、業務の付加価値を一層高めるための事業)」を位置づけ

- ビッグデータの活用により、将来的に講ずべき施策がわかり、事業を効率的に実施することが可能になるため、事業者においては、例えば、次のような効用が得られることを期待。

製品開発

☞ どのような製品を開発することが消費者に対して訴求するのかが分かる。

販売促進

☞ 誰に、何を、いつ売れば良いのかが分かる。

保守・メンテナンス・サポート

☞ いつ、どのようなメンテナンスを行えばよいか分かる。

コンプライアンス

☞ 不正の予兆や、特に注視すべき事象が何であるかが分る。

業務基盤・社会インフラの運用

☞ 全般的な性能向上・コスト削減が実現される。